

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有成分	文献	近例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
134	2007/04/26	70133	化学及血清療法研究所	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	クロストリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月23日 読売新聞)	千葉県の船橋市立医療センターは22日、同県内の50歳代の男性が、主に牛の病気の原因とされる「気腫菌」に感染し、死亡したことを明らかにした。人への感染が報告されたのは世界初である。気腫菌は傷口などから動物の体内に入り、筋肉が壊死する「気腫菌」を発症させる。同センターは、「気腫菌」は人への感染しないというのがこれまでの常識だった。詳しい感染経路を調べるのが今後の課題」としている。
135	2007/04/26	70134	化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	デオキシリボヌクレアーゼ I	ウシ臓臓	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 58(04): 73-76	2006年12月中旬にケニア保健省に発熱と全身出血に伴った原因不明の死亡例が北東部のGarissa地区から報告された。12月20日まで計11例の死亡例が報告された。患者19例中10例の血清からリフトバレー熱(RVF)ウイルスRNAまたはRVFウイルスに対するIgM抗体が検出された。黄色熱、エボラ、クリミア-コンゴ出血熱、デングウイルスには全ての血清検体が陰性であった。8検体からRVFウイルスが単離され、確定された。2007年1月25日現在、死亡118例を含む404症例が報告されている。
136	2007/04/26	70135	化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	リボヌクレアーゼA	ウシ臓臓	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 58(04): 73-76	70134に同じ
137	2007/04/26	70136	日本ビーシー製造	乾燥BCGワクチン 乾燥BCG膀胱内用(日本株)	ウシの胆汁	ウシの胆嚢	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	Vet J 2006; 171: 438-444	BSEに関連する臨床症状を30月齢以上の畜牛1008頭について調べ、死後検査により確定されたBSE状態を伴った結果と比較した。臨床的BSE状態は公表されている7つの異なった基準を用いて評価した。死後検査とマッチした997頭中1頭がBSEであった。そのBSE例はヘタリウシ用の2つの症例定義によってのみ同定された。BSEに関連する臨床兆候の定義は多様であり、曖昧である。またBSEの兆候を隠すような他の病気があるとBSEが疑われなくなるかもしれない。
												異型クロイツンフェルト・ヤコブ病	Vet Res 2006; 37: 695-703	と畜後すぐに採取した健康なウシの第一胃と結腸内容物を用いて、微生物集合体のPrP ^{Sc} を分解する能力を評価した。スクレーパー(263K株)を感染させたハムスターの脳ホモジネートと一緒に37°C、生理学的嫌気条件下で微生物集合体をインキュベートした。20時間以内に、PrP ^{Sc} は第一胃と結腸の微生物叢の高率によって免疫化学的に検出できないレベルに分解された。特にポリキシン耐性(大部分がグラム陽性)菌がPrP ^{Sc} 分解能を示した。ウシの胃腸内の微生物叢に消化中にPrP ^{Sc} を分解する能力があることが実証された。